

令和5年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

中 学 校 国 語	
<b>全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）</b>	
<p>○平均正答率は、69.0%である。</p> <p>○平均正答数は、10.4問/15問であり、全国を下回る。※全国10.5問/15問</p> <p>○市の平均正答率は、全国差-0.8ポイントである。</p>	
<b>学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別結果</b>	
<p>○学習指導要領の内容「知識及び技能」「(3) 我が国の言語文化に関する事項」では、全国差+0.6ポイントである。</p> <p>○評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差+0.3ポイントである。</p> <p>○問題形式「記述式」では、全国差+1.3ポイントである。</p>	
<b>問題別結果（正答率、無回答率からの分析）</b>	
<p>○<b>2</b>-四「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」では、全国差+2.4ポイントである。</p> <p>○<b>1</b>-三「相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する」では、全国差+1.4ポイントである。</p> <p>▲<b>2</b>-二「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」では、全国差-3.3ポイントである。</p> <p>▲<b>3</b>-二「漢字を書く」では、全国差-3.8ポイントである。なお、本問における市の平均無回答率は11.6%であり、全国平均無回答率10.7%を上回る。</p>	
<b>今後の方策例（※<b>2</b>-二を例に）</b>	
<p>「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」</p> <p>令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より</p>	
<p><b>観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える</b></p> <p>説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要である。その際、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが大切である。</p> <p>例えば、表現の仕方に着目しながら一つの文章を読み、その文章において見られた表現の特徴や工夫が他の文章でも見られるかを確認したり、二つの文章を同一の観点で比較して特徴や工夫を見だし、その効果を考えたりする学習活動などが考えられる。その際、同じ筆者による異なる文章、異なる筆者による主張が共通している文章、同一の話題で主張が異なる文章、同じ内容を扱った異なる新聞記事、立場の異なる読み手を想定した実用的な文章などを教材として取り上げることなどが考えられる。</p>	

